

令和6年11月13日

東大阪市長 野田 義和 様

東大阪市立新博物館整備基本計画審議会
会長 鈴木 喜博

東大阪市立新博物館整備基本計画について(答申)

令和6年11月7日付東大阪人文財第 10255 号で諮問のありました東大阪市立新博物館整備基本計画の策定について、慎重に審議した結果、下記のとおり答申します。

記

1. 東大阪市立新博物館整備基本計画(案)について、今後さらに実施計画等を検討する上で、妥当なものと認めます。
2. 計画の推進にあたっては、本答申並びに別紙に記した本審議会での委員の意見・議論を十分に踏まえ、中核市である東大阪市にふさわしい、市の歴史や魅力を次世代に伝える博物館を整備されることを要望します。

- (1) 基本理念「まちの・わたしの博物館」をしっかりと形にできる、東大阪市にふさわしい博物館として整備すること。
- (2) 子どもファーストの視点から、新博物館の重点ターゲットを「子どもたち」と設定されていることは、子どもたちの成長とまちの将来にとって非常に重要であると考え。あわせて、多様な利用者が訪れるまちの賑いを創出する施設として整備すること。
- (3) 博物館の展示機能については、最も重要であると考え。新博物館の要となる常設展示や企画展示のスペースについては、東大阪市に特化した、具体的な展示プランを企画構想するなかで、十分に確保して整備を進めること。あわせて(9)のジオラマ及びデジタル展示の導入可能な機能とスペースを確保すること。
- (4) 学芸員の体制については、民間事業者ではなく専門知識を有した市職員が責任をもって行うこと。魅力ある展示企画を実施するためには、学芸員が開館準備から一貫して整備に携わることが重要である。市民、地域、他館と信頼関係を構築し、魅力あふれる博物館とするためにも、開館までに経験ある複数の学芸員を計画的に配置すること。
- (5) 未来の東大阪市を担う子どもたちに向けて、学校教育との連携を推進すること。学校の社会科見学を十分に受け入れられる環境を整備し、子どもたちが今につながる東大阪の歴史文化に愛着を深め、新鮮な発見や気づきを得られる展示手法や体験プログラムを提供すること。また、教育单元に対応した展示や体験プログラムを充実させること。
- (6) 博物館パートナーとの連携を推進すること。東大阪市の特性を反映し、ボランティア活動の拠点となるなど、開設準備段階から各博物館パートナーと連携できる環境を整備し、各々が学びを深め、まちとひとつながる発展的な協働・交流事業のしくみ作りを行うこと。
- (7) ユニバーサルデザインや社会包摂の考え方を取り入れること。国籍や言語、年齢や性別、障害や経済状況にかかわらず、すべての人々の知る権利・学ぶ権利を保障するとともに、誰もが理解しやすく使いやすいユニバーサルデザインを心掛けること。
- (8) 子ども展示室は、特に安全に配慮し、十分な管理体制とメンテナンスを行うこと。適正な入場者数や運用ルールを定めるとともに、しっかりと安全確保ができる管理体制を確保し、展示物や体験プログラムは、確実にメンテナンスを行い、適宜更新していくこと。
- (9) 魅力ある展示を構想するため、実物展示を基本としながらも、常設展示では(2)の子どもファーストの視点から、大型のジオラマ及び映像を導入し、分かりやすく、親しみやすい展示等の検討など、自然・考古・歴史系専門家集団の中に、いわゆるデジタル展示に詳しい専門家を加えて、専門的展示構想チームを設立すること。
- (10) 新博物館整備を推進するため、博物館展示および運営に長じた指導者および経験者を中心とした新博物館準備室などを組織し、強いリーダーシップのもとに、開館に向けた整備と執行体制の充実を図ること。